

助成年度：平成 10 年度

[所属] 滋賀県立大学 環境科学部
[役職] 講師
[氏名] 野間 直彦 (他計 8 名)

[課題]

インターネットを使った「屋久島オープン・フィールド博物館」の構築

[内容]

屋久島はその独特な自然環境が注目され、世界自然遺産にも登録された。自然環境の保全を島の振興にどう生かすのかが課題となり、指針が求められている。1984 年提案の、屋久島の自然と人々の営みを博物館の中味とし社会的に利用していこうという「屋久島オープン・フィールド博物館」構想の中で、まだ実現していないことは研究成果を還元するしくみであることが明らかになった。そこで本研究では、屋久島における過去の研究成果を誰にでも利用可能にすることを目的に、インターネットのホームページ上に仮想博物館の構築をすすめた。

屋久島に関わっている研究者を学芸員として登録し、ホームページにこれまでの調査研究を生かした自然教育のテキストとカリキュラムを掲載した。来館者の質問に学芸員が答えるコーナーも設けた。また関係のある他のホームページとリンクさせ、遠くの機関や施設のもつ情報にアクセスできるようにした。島の中では、現存の中核施設に端末を置き運用することによって、核施設は「屋久島オープン・フィールド博物館」の窓口となると同時に、それぞれの機能を補完することが容易になる。

対面的活動として、「屋久島フィールドワーク講座」や京都市立紫野高等学校の特別授業に参画し、研究成果を活用し資料の蓄積を行った。仮想博物館はまた自然学習の場にとどまらず、屋久島のさまざまな環境問題を解決するためのシンクタンクとして機能し政策立案に関与することが期待される。現存の各施設は管轄が異なっており、その間の有機的な連携が困難なため、仮想博物館は、現存の中核施設の機能を生かし連携しつつかつ補完することが課題である。ホームページを見せて関係諸機関と行った議論では、仮想博物館の役割は地域の市民と機関に研究の正確な情報を提供することが中心で、ゆるやかなネットワーク作りを促進するものであると評価され、今後の活動について協力しあってゆく合意が得られた。